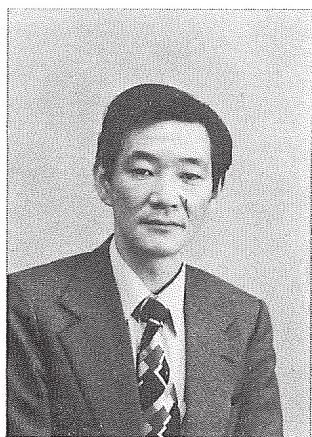


序 文



1982年（昭和57年）は、講道館が創立された1882年（明治15年）から数えて、百周年にあたる。講道館ではこの年を記念すると共に、さらに新しい使命達成を期して、幾つかの記念行事を計画実行してきた。これら諸事業の中心として、鋭意建設中の講道館国際柔道センターも、いよいよ工事予定の2年間を経て、本年3月には完成する。翌4月27日には、創立100周年記念と新館竣工記念を併せた式典が盛大に行われるであろう。

さて、今回講道館柔道科学研究会紀要第VI輯も、百周年記念として出版の運びとなった。本書が国内はもとより、広く海外で柔道の教育、研究、普及にたずさわる柔道人に役立ち、

講道館柔道の正しい発展の上に寄与できることは、真に喜ばしい。

嘉納治五郎師範は、講道館柔道を1882年2月に創始し、5月に講道館を設立した。以来柔道の必要とする深い研究を続け、国内および国際的普及に努力し、技術的方面、体育としての柔道、柔道原理を社会生活に応用する面での理論的な裏付けを積んだ。そして柔道による個人の完成、自他の共栄をはかり、世界の平和、人類の幸福を目的とする理想を掲げたのである。1932年（昭和7年）には、柔道医事研究会がつくられた。師範歿後、1948年（昭和23年）にはさらに柔道科学研究会と改名され、単に医学的のみならず、広く教育学、心理学、生理学等を応用した柔道の基礎的、専門的な研究が推進された。また各国研究者との国際交流も図られるようになったのである。

本書は研究会の各研究班組織において、会員各位が協力研鑽された業績の報告を集成したものである。これら優れた論文は、英和文によって上梓され、海外研究者の便宜がはかられている。

終りに、会員諸賢の柔道に対する暖かい御理解と御尽力によって、本紀要が発刊されたことについて心から感謝を申し上げ、今後とも一層の御支援を御願ひする次第である。

1984年1月

講道館長 嘉納行光